

授業科目	言語聴覚障害診断学				
担当者	森田婦美子・森田秋子・他				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 授業目的・内容

- ①運動障害性発話障害が生じる神経的基礎を踏まえ、障害レベルに応じた評価を行い、適切な訓練目標を設定して実施できるようにする。運動障害性発話障害の原因と、それに応じた発声発語器官の形態。機能の検査、発話の検査による評価と訓練、および発話補助手段について述べる。(講師非公表)
- ②喉頭摘出後の代用音声について学ぶ。(森田秋子)

■ 到達目標

- ①運動障害性発話障害が生じる神経的基礎を踏まえて発声発語器官の形態、機能の検査、発話の検査による評価ができるようになる。(講師非公表)
- ②代用音声の導入について理解を深める。(森田秋子)

■ 授業計画

- 第1回 導入：運動障害性発話障害の障害レベルと評価について (講師非公表)
- 第2回 発話の検査 (標準ディサースリア検査、発話明瞭度検査) (講師非公表)
- 第3回 呼吸機能、発声機能の評価 (講師非公表)
- 第4回 鼻咽腔閉鎖機能の評価 (講師非公表)
- 第5回 口腔構音機能の評価 (運動範囲) (講師非公表)
- 第6回 口腔構音機能の評価 (運動速度) (講師非公表)
- 第7回 口腔構音機能の評価 (筋力) (講師非公表)
- 第8回 機器を用いた検査、反射検査など (講師非公表)
- 第9回 VTR による症例呈示と検査の実施 (講師非公表)
- 第10回 VTR による症例呈示と検査の要約 (講師非公表)
- 第11回 評価結果のまとめと所見作成 (講師非公表)
- 第12回 評価結果の分析と考察 (講師非公表)
- 第13回 喉頭摘出後の代用音声 (森田秋子)
- 第14回 喉頭摘出後の代用音声 当事者の方からのお話 (森田秋子)
- 第15回 II期実習ガイダンス カルテのみかた (森田婦美子)

■ 評価方法

成績は、定期試験における科目試験(筆記試験) 100%の結果にて評価する。

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

予め授業前にテキスト(標準ディサースリア検査)の準備物と評価手順と基準の箇所について、読んで準備してきてください。授業後に配布資料とテキストを読んで実際に検査手技を行って復習しておいてください。事前に検査で使用する物品の作成など準備が必要です(予習、準備 1.0時間)。講義終了後に検査手順を確認する(復習1.0時間)。

■ 教科書

書 名：標準ディサースリア検査 新装版
 著者名：西尾正輝
 出版社：インテルナ出版

■ 参考図書

■ 留意事項

- ・ 臨床実習Ⅱのシラバスも参照すること。
- ・ 検査手技の演習を2人ペアになって行うので、予めペアを組む人を確認しておくこと。また、感染対策のため窓を開け換気を励行するとともに、予め各自フェイスシールドの用意をしておいてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。